

令和6年2月13日(火)

## すべての人間は、生まれつき、知ることを欲す！

この言葉は斎藤孝著の「こどもギリシア哲学—汝自身を知れ—」から紹介しています。やったことのないことをやるのは、自分が何が好きなのか知るためのいい方法です。しかし、それだけではありません。

やったことのないことをやって、できるようになったとき。これまでできなかったことができるようになったとき。「自分の能力が増えた」と感じられたとき。

自然と生まれてくる「自分を信じられる力」こそ、自信なのです。

余計なことを考えずに、言われたとおりにやればいいことは、ロボットの方が上手にできます。つまり、何も考えずに指示を待っているだけの人は、これからの時代はロボットに負けてしまうということです。せっかく自分の意志で動ける皆さんです。ロボットに負けるような生き方は、もったいないです。

「一つのことをやり続けることは素晴らしい」という考え方もあります。

例えば皆さんが長距離走の練習をしていて、途中で違うことをやろうとしたら、きつとこう言われると思います。「せっかく長距離を長く続けたのに、もったいないよ」と。

しかし、皆さんは、本当は長距離走ではなくサッカーや野球などの球技が向いているかも知れません。水泳が向いているかも知れません。運動ではなく、楽器演奏の天才かも知れません。たまたま始めたことが長く続いているだけで、才能と一致しているとは言えない可能性もあります。

別に長距離走をやめなくてもいいのです。長距離走を続けながら、やったことがないことにも挑戦すれば、可能性が広がるのです。

ですから、やったことがないことにも挑戦して、本当の自信を付けましょう。